

# Weekly Report



## 名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日 13:00～14:00

会長 藤谷 猛

例会場 ANA クラウンプラザ  
グランコートホテル名古屋

幹事 深見 礼子

承認 2013年6月18日

公共イメージ  
向上 岩崎 幸弘



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、  
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

### 第216回 例会

2018年1月31日 13:00～

- 司 会：島村恵三 例会運営・司会委員
- 斉 唱：手に手をつないで
- 出席報告：出席者数28名 / 会員数 43名  
出席率 65.1%  
前々回(214回)修正出席率88.4%

■ゲスト：

■ビジター：

### ニコボックス

- インフルエンザが大流行です。出席率のためにもみなさんどうかご自愛ください。(藤谷会長)
- サリーさん、本日よりよろしくお願いいたします。3月も、セミナーお世話になります。お世話になりっぱなしで、今年はスタートです。(竹内会長エレクト)
- 1月いく、2月逃げる、3月去る、とも言う3か月のうち、1月も今日で終わります。この寒さもあと1週間と思います。アイリス会員の皆様、お体ご自愛ください。感謝。(櫻井孝充直前会長)
- 今夜は皆既月食です。空が晴れ渡り、きれいに見えるといいですね。(安井忠クラブ戦略委員長)
- 不意にニコボックスの前で立ち止まったところ、加藤さんと目が合ってしまった。加藤は私の旧姓なので、特に理由もなく入れさせていただきます。(荒山久美さん)
- そろそろ確定申告の時期ですね。ビットコインの儲けやふるさと納税の返戻品も課税の対象らしいですよ・・・お気をつけ下さい。(加藤晴美さん)
- 健康の大切さを2週間、家で考えました。元気になって、皆さんに会えてうれしいです。(青木恭子さん)
- weeklyを読み、ニコボックスに入れる大切さがよくわかりました。(伊藤喜子さん)

ニコボックス合計 15,000円

### 会長挨拶



みなさん、こんにちは。

最近、テレビや新聞で「働き方改革」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。働き方改革の背景には、「労働力の主力となる生産年齢人口(15～64歳)が想定以上のペースで減少していること」が挙げられます。このままでは、国全体の生産力低下・国力の低下は避けられないとして、内閣が本格的に「働き方改革」に乗り出したのです。

労働力不足を解消し、一億総活躍社会を作るためには3つの対応策が考えられます。

1. 働き手を増やす(労働市場に参加していない女性や高齢者)
2. 出生率を上げて将来の働き手を増やす
3. 労働生産性を上げる

この3つに取り組むというのが「働き方改革」の概要です。

ところが、日本の労働生産性は、OECD 加盟国の全 35 カ国の中で 22 位と低迷しています。なんと主要 7 カ国の中では最下位です。

しかし、働き方改革を実現するためには、次の 3 つの課題があります。

1. 長時間労働
2. 非正規と正社員の格差
3. 労働人口不足(高齢者の就労促進)

これらが、働き方改革の最重要事項といってもよいでしょう。たとえば急激な人手不足を補うために工場などでは、既にロボットの導入をはじめとした自動化が進んでいます。また今、一番問題となっている運送業界では、自動倉庫の導入や配送順位・時間、パッキング、ドライバーの割り当てなどを人工知能AIで最適化し、ドライバーと車両の削減を可能にする方法が始まっています。海外では、コンビニのレジを自動化し無人の店舗も実現しています。つまり何らかの方法で人に代わる機械や装置が、その仕事を正確に間違いなく代替しているのです。自動車メーカーの工場に行けば、多くのロボットが車のボディを溶接し、塗装を行い次の工程に搬送しています。この間、人の介在は、まったくありません。

ここまでは、みなさんご存知の状況かと思います。みなさん、ここで何か気が付きませんか？ 共通していることは、すべて工場や店舗など現場での自動化による効率化による労働者不足の改善です。では、オフィスで働くホワイトカラーの世界でのロボットって聞いたことがありますか？

今日のポイントは、ここです。私の職業は、コンピュータのシステム開発ですので、まだ始まったばかりのオフィスでのロボットの話をさせて頂こうかと思います。

ホワイトカラーにおいても高齢化による生産年齢人口の減少という問題が、すぐ近くまで迫ってきています。こうした状況を乗りきる一つの手段として、いま注目を集めているのが、RPA(Robotic Process Automation)です。RPA には工場で働くロボットのような手足がありませんので、直接物を運んだり加工したりはできません。

RPA とは、ロボットによる業務自動化の取り組みを表す言葉です。「仮想的労働者」とも言い換えられ、人間の知能をコンピュータ上で再現しようとする AI や「機械学習」といった技術を用いて、主にバックオフィスにおけるホワイトカラー業務の代行を担います。

人間が行う業務の処理手順を操作画面上から登録しておくだけで、ソフトウェアはおろか、ブラウザやクラウドなどさまざまなアプリケーションを横断して処理します。簡単に言えば、人がパソコンに向かってやっている仕事をロボットが自分で考え処理していく仕組みと言えます。ロボットですから疲れない、文句は言わない、間違えないというメリットがあります。

その姿は、ただのパソコン一台です。すべてはソフトウェアで構成されていますが、導入企業では名前をつけて社員として扱っているところもあるようです。日本生命保では、保険契約者から郵送される保険金の請求書に記載されている、約 10 桁の証券記号番号入力に RPA を導入。職員は証券番号をスキャンするだけで、ロボットが社内システムを横断して、データの収集から業務システムへの入力までを代行しています。

東京三菱 UFJ 銀行では、RPA が 1 時間おきに社内システムにアクセスしてデータを取得し 20 種類の事務処理を行い、年間で 8,000 時間分の事務処理作業削減に成功したとのこと。

いよいよオフィスでのロボット化が始まります。私どもの会社でも現在、ロボットの開発に試行錯誤しているところであります。こうして工場でもオフィスでもロボット化が進み人はいらなくなります。確かに休みも増えるかもしれません。その先にあるのは何でしょうか？ 人に残される仕事は、高度な技術や知識が要求されるハイレベルなものだけになってしまわないでしょうか。一般の人がやる仕事は、すべてロボットが行うとすると、その方々の働く場所はどこにいくのでしょうか？

便利になり、楽をする事が本当に人の幸せになるのか、大きな課題を見たような気がします。

会長挨拶を終わります。

(原文のまま掲載)

■ 幹事報告 なし

■ 卓話

生田サリーさん(当クラブ会員)

今日は、  
「人をひきつける話し方」  
というテーマで卓話をいただきました。  
短い時間の中で、いろいろなエッセンスを教えてくださいました。



出席者全員起立して、発声訓練までやりましたよ！



内容につきましては記載しきれないので、下記に著書を紹介しておきます。ご興味ある方は是非お読みになってください。大変参考になりますよ。

タイトル：「初対面の相手の心を一瞬で開く方法」  
出版社： KADOKAWA  
著者： 生田サリー

以上